

新春特別座談会

「2025年」まで残り1年 地域包括ケアシステムの現在地は

一出席者一

埼玉県立大学 理事長 田中 滋氏
国際医療福祉大学大学院 准教授 小平めぐみ氏
ヤマシタ 社長 山下 和洋氏

団塊の世代が全後期高齢者に到達し終わっている2025年初頭まで残り1年を切った。いわゆる「2025年問題」として、この年を目前に地域包括ケアシステム構築に向けた累次の改正・改定が行われてきた。これまでに地域包括ケアシステム構築に向けた累次の改正・改定が行われてきた。これまでに地域包括ケアシステム構築に向けた累次の改正・改定が行われてきた。これまでに地域包括ケアシステム構築に向けた累次の改正・改定が行われてきた。



田中 滋氏

慶應義塾大学名誉教授。専門は医療政策・介護政策。地域包括ケアシステムの第一人者で、地域包括ケア研究会座長を務めた。社会保障審議会介護給付費分科会分科会長として、介護報酬改定に長く携わってきた。2018年より現職。

「当たり前」になった 医療介護連携

地域包括ケアシステム構築の目途としていた2025年まであと1年となりました。地域包括ケアシステムの構築はどの程度進んだのでしょうか。田中 滋氏、地域包括ケアシステムの構築に完成形や到達点はないと考えています。2008年に立ち上がった地域包括ケア研究会も「何を待って地域包括ケアシステムの完成とするか」という点について言及したことはありません。ただし、地域包括ケアシステムが提唱された当時と比べて、変化や進化をみることはできます。

担当課の創設など 自治体の体制も変化

田中 医療介護連携以外に、地域包括ケアシステム推進の責任者である自治体の体制も大きく変わりました。多くの地方自治体が「地域包括ケア課」の名称で、地域包括ケア専門の部署や担当者を置くようになった。地域包括ケアシステム推進の役割や業務規定が設定されれば、そのための施策や仕組みへの注力も進みます。

ケアマネジャーの 今後は

今年4月から、ケアマネジャーの法定研修の力キョムに「適切なケアマネジメント手法」が位置付けられます。小平 適切なケアマネジメント手法は、基本ケアと高齢者に多い疾患別ケアについて、ケアメントや支援内容の抜け漏れを防ぐことで、一定水準以上のケアマネジメントの質を担保するものです。

LFEEで現場の ケアはどう変わるか

田中 その通りですね。ただ、家族関係や経済的な事情の判断はAIには難しい。そうした課題を抱える利用者や家族の支援が今以上に求められるようになっていくでしょう。小平 私もそう思います。ケアマネジャー不足が深刻さを増す中で、AIやICTを活用し効率化を図ることは、複合的な課題を持つ利用者・家族への支援がさらに重視されるのではないのでしょうか。

山下 和洋氏

慶應義塾大学卒業。2010年ヤマシタコーポレーション(現・ヤマシタ)入社、高松営業所配属。13年7月より現職。全国福祉用具専門相談員協会副理事長、日本福祉用具供給協会理事、日本リネンサプライ協会理事なども務める。

福祉用具選択制導入への懸念と課題

山下 次期改定では、福祉用具の松葉杖を除く歩行補助杖や歩行器などの一部の種類について、選択制を導入することが、介護給付費分科会審議報告でも位置付けられました。私自身は、賞与原則は維持すべきだと考えています。杖一本のレンタルでも居宅介護支援の費用がかかるという点で財務面の指摘ですが、ケアマネジャーによる継続的なケアマネジメントがあるからこそ重荷を防止し、結果的に財政抑制にも繋がっているケースは少なくありません。選択制なので利用者は賞与を選べることもできますが、なかなか自身の状態や疾病を予測するのは難しい。適切な判断をどのように担保していくかが課題といえます。

「当たり前」になった 医療介護連携
地域包括ケアシステム構築の目途としていた2025年まであと1年となりました。地域包括ケアシステムの構築はどの程度進んだのでしょうか。田中 滋氏、地域包括ケアシステムの構築に完成形や到達点はないと考えています。2008年に立ち上がった地域包括ケア研究会も「何を待って地域包括ケアシステムの完成とするか」という点について言及したことはありません。ただし、地域包括ケアシステムが提唱された当時と比べて、変化や進化をみることはできます。



小平 めぐみ氏

博士(医療福祉学)。専門領域は自立支援介護、認知症、高齢者福祉など。介護福祉士、介護支援専門員などの現場経験を経て、2011年より現職。日本自立支援介護・パワーリハ学会代表理事も務める。

ある意味、「型」があるもので、例えばAIなどに落とし込むことも難しくはないでしょう。そう考えると、ケアマネジャーの役割も今後また変わっていくのではないかと感じています。

田中 重厚化防止にも繋がります。福祉用具に限らず、身体機能や生活の利便性が高まれば、意欲が湧くことも少なくありません。

山下 当社もそうした動向に着目し、AIベンチャーのエンサウイザールと設立した合併会社エクスナラムケアで、口腔機能をAIで評価する取り組みも進めています。利用者が「パ」「タ」「カ」と繰り返して発音する様子をスマホなどで撮影し、アップロードすると、AIが舌の機能分析やおすすめ運動

Advertisement for Yamashita Co., Ltd. featuring a caregiver assisting an elderly woman in a wheelchair. Text: 「からだ、こころ、くらしの豊かさを届け続ける」. Includes contact information and a QR code.